

令和4年度 岐阜県農薬管理指導士認定試験問題

指示があるまで開けてはいけません

【 注 意 事 項 】

- 1 問題は、40問あります。
- 2 設問ごとに答えを一つ選んで、その番号を各問題右下の□に記入してください。
- 3 □に、選択肢の1～4以外の番号を記入した場合及び1～4の番号を2つ以上記入した場合は「無効」となります。
- 4 問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- 5 問題は、3ページから21ページまでです。落丁、印刷ミス等がある場合は挙手してください。
- 6 試験開始後、30分間は退場できません。また、退場した方は、再び入場することはできません。
- 7 退場するときは、問題用紙を閉じ、この面を表にして各自の机の上に置き、忘れ物のないように静かに退場してください。
- 8 下欄に「受講番号」及び「氏名」を記入して開始の合図までお待ちください。

受講番号		氏 名	
------	--	-----	--

【植物防疫一般】

問1 植物防疫に関する次の記述のうち、正しい組み合わせを1～4の中から一つ選びなさい。

- ア 植物防疫とは、農薬による病虫害防除のみを行うことである。
イ 病虫害防除に関する基本的な考え方の一つに、病虫害の発生しにくい圃場づくりがある。
ウ 総合的病虫害・雑草管理（IPM）は、農薬を多用し病虫害・雑草の発生の根絶を目指すことである。
エ 海外からの病虫害の侵入及び国内でのまん延を阻止するため、植物防疫法に基づき植物検疫（輸入検疫、輸出検疫、国内検疫）が実施されている。

	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	正	誤

解答

問2 次の文章は、植物防疫について記述したものである。（ア）～（ウ）に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

植物防疫とは、病虫害がまん延して農作物に被害を与えるのを防ぐための総合的、かつ組織的な施策であり、病虫害の今後の発生をデータ解析して予測する（ア）、農薬使用や耕種的、物理的手法等を利用した（イ）、海外からの病虫害の侵入及びまん延を防止し、農林産物を病虫害の脅威から守るための（ウ）が実施されている。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	病虫害発生予察	病虫害防除	植物検疫
2	病虫害防除	病虫害発生予察	植物検疫
3	病虫害発生予察	植物検疫	病虫害防除
4	植物検疫	病虫害発生予察	病虫害防除

解答

問3 無人航空機の利用に関する次の記述のうち、(ア)～(ウ)に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

無人航空機による農薬散布は、きめ細かな作業が可能で作業を省力化できることや、作業能率が高いなどのメリットがあるが、(ア)も求められている。

(ア)として、危害防止措置の徹底(養蚕、ミツバチ、魚類、周辺他作物、周辺施設等への飛散防止)、(イ)、散布区域への立入禁止措置などの徹底が必要である。

近年、ドローン等小型無人航空機や自動操縦による農薬等空中散布ニーズが高まるなか、農林水産省は令和元年度に、無人ヘリコプター、無人マルチローターのそれぞれに、「農薬の空中散布に係る安全(ウ)」を策定して農薬の安全かつ適正な使用を図っている。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	安全対策の徹底	近隣住民等への事前周知	ガイドライン
2	広範囲での利用	近隣住民等への事前周知	指導指針
3	安全対策の徹底	効率優先の散布	ガイドライン
4	低コスト化	効率優先の散布	指導指針

解答

【農薬取締法】

問4 次の文章は農薬取締法の第1条(目的)の部分である。空欄にあてはまる言葉の組み合わせのうち正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

この法律は、農薬について(ア)の制度を設け、(イ)を行うことにより、農薬の安全性その他の品質及びその安全かつ適正な使用の確保を図り、もって農業生産の安定と(ウ)に資するとともに、国民の生活環境の保全に寄与することを目的とする。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	届出	販売及び保管の規制等	国民の健康の保護
2	登録	販売及び使用の規制等	国民の健康の保護
3	登録	販売及び保管の規制等	食糧の安定供給
4	届出	販売及び使用の規制等	食糧の安定供給

解答

問5 次の文章は農薬取締法の第2条（定義）の部分である。（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

この法律において「農薬」とは、（ア）（樹木及び農林産物を含む。以下「農作物等」という。）を害する菌、線虫、だに、昆虫、ねずみ、草その他の動植物又はウイルスの防除に用いられる（イ）、殺虫剤、除草剤その他の薬剤及び農作物等の生理機能の増進又は抑制に用いられる（ウ）、発芽抑制剤その他の薬剤をいう。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	農作物	展着剤	成長促進剤
2	農作物	殺菌剤	成長促進剤
3	園芸作物	殺菌剤	除草剤
4	園芸作物	殺菌剤	成長促進剤

解答

問6 次の文章は、農薬の販売者の届出期間に関する規程である。（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬の販売者の届出は、新たに販売を開始する場合にあつてはその（ア）までに、販売所を増設し、又は廃止した場合にあつてはその増設又は廃止の日から（イ）に、届出に掲げる事項に変更を生じた場合にあつてはその変更を生じた日から（ウ）に、これをしなければならない。

	（ア）	（イ）	（ウ）
1	開始の日2週間前	2週間以内	2週間以内
2	開始の日	10日以内	10日以内
3	開始の日	2週間以内	2週間以内
4	開始の日10日前	10日以内	10日以内

解答

問7 農薬の登録に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬は登録申請の際に安全性が確認されているため、適用農作物等の範囲に含まれない作物にも使用できる。
- 2 農薬の登録に有効期間はない。
- 3 個人で農薬を輸入する場合は、農薬の登録を受けなくてもよい。
- 4 試験研究のために、農薬を製造する場合は、農薬の登録を受けなくてもよい。

解答

問8 次の文章は、除草剤を農薬として使用することができない旨の表示についての、農薬取締法及び農水省令からの抜粋である。(ア)～(ウ)にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

(農薬取締法第22条第2項)

除草剤販売者(除草剤の小売を業とする者に限る。)は、農林水産省令で定めるところにより、その販売所ごとに、(ア)に、除草剤を農薬として使用することができない旨の表示をしなければならない。

(農薬取締法施行規則第17条第2項)

法第22条第2項の規定による表示は、次のいずれにも該当する方法によりしなければならない。

- 一 表示に用いる文字が明瞭に判読できる(イ)であること。
- 二 表示に用いる文字の色が(ウ)と比較して鮮明でその文字が明瞭に判読できること。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	従業員の見やすい場所	書体	背景の色
2	従業員の見やすい場所	大きさ及び書体	商品の包装
3	公衆の見やすい場所	書体	商品の包装
4	公衆の見やすい場所	大きさ及び書体	背景の色

解答

問9 農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 航空機を用いて農薬を散布するときや住宅地周辺で農薬を使用するときは飛散を、ゴルフ場や水田で使用するときは流出を、クロルピクリンを含有する農薬を使用するときは揮散を防止するために必要な措置を講じるよう努めなければならない。
- 2 飼料作物は、ヒトが口に入れるものではないため、適用農作物の範囲に含まれていない農薬も使用することができる。
- 3 農薬の使用回数のカウントには、種や苗への使用は含まれない。
- 4 ゴルフ場で農薬散布を行う者は、農薬使用計画を提出する必要はない。

解答

【毒物・劇物取締法】

問10 毒物及び劇物取締法第8条に規定されている毒物劇物取扱責任者の資格に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 18歳未満の者であっても、都道府県が実施する毒物劇物取扱者試験に合格すれば、毒物劇物取扱責任者になることができる。
- 2 厚生労働省令で定める学校で、応用化学に関する学課を修了した者は、毒物劇物取扱責任者になることができる。
- 3 毒物又は劇物の販売業の店舗において、5年以上毒物又は劇物を取り扱う業務に従事した者は、毒物劇物取扱責任者になることができる。
- 4 医師免許があれば、毒物劇物取扱責任者になることができる。

解答

問 1 1 次の文章は、毒物及び劇物取締法第 14 条第 1 項に規定されている毒物又は劇物の譲渡手続に関する次の記述について述べたものである。(ア)～(ウ)に入る語句の組み合わせとして、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

毒物劇物営業者は、毒物又は劇物を他の毒物劇物営業者に販売し、又は授与したときは、その都度、次に掲げる事項を書面に記載しておかなければならない。

- 一 毒物又は劇物の名称及び(ア)
- 二 販売又は授与の(イ)
- 三 譲受人の氏名、(ウ)及び住所(法人にあつては、その名称及び主たる事務所の所在地)

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	成分	目的	年齢
2	成分	年月日	年齢
3	数量	目的	職業
4	数量	年月日	職業

解答

問 1 2 毒物又は劇物の事故の際の措置に関する次の記述の正誤について、正しいものの組み合わせを 1～4 の中から一つ選びなさい。

ア 毒物劇物営業者は、その取扱いに係る毒物又は劇物が地下に染み込んだ場合において、不特定又は多数の者について保健衛生上の危害が生ずるおそれがあるときは、直ちに、その旨を保健所、警察署又は消防機関に届け出なければならない。

イ 毒物劇物営業者は、その取扱いに係る毒物又は劇物が流れ出した場合において、不特定又は多数の者について保健衛生上の危害が生ずるおそれがあるときは、直ちに、保健衛生上の危害を防止するために必要な応急の措置を講じなければならない。

ウ 毒物劇物営業者は、その取扱いに係る毒物又は劇物が盗難にあい、又は紛失したときは、直ちに、その旨を警察署に届け出なければならない。

	ア	イ	ウ
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

解答

【食品衛生法】

問13 食品衛生法に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 食品等事業者とは、食品の加工や販売を行う者を指し、食品の採取を行う者は含まれない。
- 2 都道府県知事等は毎年度、翌年度の食品衛生監視指導計画を策定し、食品等の検査や食品等事業者の監視指導を行っている。
- 3 販売食品等に関する記録は、個人情報が含まれるため、いかなる場合でも、都道府県等へ提供してはならない。
- 4 輸入食品の検査は検疫所で実施するため、岐阜県では検査していない。

解答

問14 次の文章は、残留農薬の規制について述べたものである。(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

(ア)では、食品に残留する農薬の基準が定められている。(ア)の改正により、平成18年5月29日から、いわゆる(イ)が導入され、食品の成分規格が定められているもの及び人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質を除き、「人の健康を損なうおそれのない量」として一律の基準 [(ウ) ppm] が適用されることとなった。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	食品衛生法	ネガティブリスト制度	0.1
2	農薬取締法	ネガティブリスト制度	0.01
3	食品衛生法	ポジティブリスト制度	0.1
4	食品衛生法	ポジティブリスト制度	0.01

解答

【農薬一般】

問 1 5 農薬の用途別分類に関する次の記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 殺虫剤は、有害な昆虫（害虫）のみを防除する薬剤を指し、殺ダニ剤や殺線虫剤などは殺虫剤には含まれない。
- 2 殺菌剤は、有害な菌（病原細菌、病原糸状菌）を防除する薬剤を指し、ウイルスに対する防除剤も含まれる。
- 3 植物成長調節剤は、品質や収量を向上させるために、植物の成長をコントロールする薬剤であるため、農薬には含まれない。
- 4 展着剤は、界面活性剤の一種であり、主成分の効果を高める働きがあるだけで、それ自体には薬効はないため、農薬には含まれない。

解答

問 1 6 農薬の剤型別分類に関する次の記述のうち、正しいものを 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 粉剤とは、粘土などの鉱物質によって微粉となるように製剤化したもので、散布する際には水に溶解させてから使用する。
- 2 液剤とは、水溶性の液体の製剤であり、散布する際には希釈せずにそのままの濃度で使用する。
- 3 水和剤とは、水に対して親和性のある製剤であり、散布する際には水に懸濁・希釈して使用する。
- 4 フロアブル剤とは、乳化剤などを加えた液体の製剤であり、散布する際には有機溶媒に懸濁・希釈して使用する。

解答

問17 農薬の分類と薬剤抵抗性に関する記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬はそれぞれの成分の作用機構によって、殺虫剤はIRAC、殺菌剤はFRAC、除草剤はHRACの分類に従って細かく分類されている。
- 2 害虫や病原菌が薬剤抵抗性（薬剤耐性）を持たないようにするためには、同じ系統の農薬を連続して使用することが重要である。
- 3 害虫や病原菌が薬剤抵抗性・耐性を持たないようにするためには、農薬を使用するたびに、粉剤や液剤など農薬の剤型を変えて使用することが重要である。
- 4 病害虫がある種の薬剤に抵抗性を持った場合、異なった作用機構の薬剤に対しても、抵抗性を同時に持つことはない。

解答

問18 次の文章は、農薬の生産と流通に関して述べた文章である。（ア）～（ウ）に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬の生産金額は、1996年（平成8年）に4,455億円となった後、現在まで横ばいから（ア）の傾向である。そのうち、普通物に該当する農薬の生産金額が、毒物及び劇物の生産金額と比較して（イ）。国内の農薬の流通は、全農・農協を通じて流通する系統ルートと、メーカーから卸売業者を通じて流通する商系ルートに大別され、系統：商系の比率はおよそ（ウ）で、系統ルートのほうが多い。

- | | （ア） | （イ） | （ウ） |
|---|-----|-----|-----|
| 1 | 増加 | 高い | 6：4 |
| 2 | 減少 | 低い | 8：2 |
| 3 | 増加 | 低い | 8：2 |
| 4 | 減少 | 高い | 6：4 |

解答

【農薬安全性評価】

問19 農薬のリスクに関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 作物に散布された農薬のうち、作物に付着した農薬の多くは、自然に分解・消失していくことはほとんどなく、収穫物に残留する。
- 2 作物に散布された農薬のうち、土壌に落下した農薬の多くは、土壌表面あるいは土壌表層で分解・消失する。
- 3 作物内に残留した農薬は、洗浄したり、皮を剥いたり、加熱しても、減少することはほとんどない。
- 4 飛散や流亡などによって環境中に拡散した農薬のリスクは、陸上の生活環境動植物に対してのみ評価が求められている。

解答

問20 農薬の毒性評価に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬の毒性には、短期間に多量に摂取した場合の急性毒性と、長期間に微量に摂取し続けた場合の慢性毒性（慢性毒性）がある。両者の関係性は非常に高く、急性毒性が高い場合は慢性毒性も必ず高くなる。
- 2 農薬の毒性評価に設定されている「急性参照用量（ARfD）」とは、ヒトがその農薬を毎日一生涯にわたって摂取しても、健康に悪影響を示さないと推定される摂取量のことである。
- 3 2020年（令和2年）4月より、農薬の毒性だけでなく、農薬の使用者（散布者）への暴露も考慮した暴露量に基づいた毒性評価法も導入されている。
- 4 農薬を散布した後、その有効成分は分解される過程で様々な物質（代謝生成物）に変化するが、その代謝生成物の毒性については評価する必要はない。

解答

問21 次の文章は、農薬の残留基準について述べたものである。(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬の残留基準等で使用される単位「ppm」とは、100万分の1という意味であり、作物中の残留農薬では、1ppmは1kgの作物に含まれる(ア)の農薬に相当する。残留農薬基準値は、「一日摂取許容量(ADI)」と「急性参照用量(ARfD)」に基づいて定められており、様々な食品からの長期的な摂取量の総量が(イ)の8割を超えないことと、個別の食品からの短期的な摂取量が(ウ)を超えないように設定される。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	1mg	ADI	ARfD
2	1mg	ARfD	ADI
3	1g	ADI	ARfD
4	1g	ARfD	ADI

解答

問22 農薬の環境中における影響に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 現在登録のある農薬は土壌残留試験をクリアしているが、連用すると土壌中で分解・消失せずに蓄積することが多い。
- 2 河川等の公共用水域では、低濃度でも農薬が検出される事例が頻発しており、そのレベルも増加している。
- 3 有用生物に対する農薬の影響評価は、ミツバチや蚕を評価対象にして行われてきたが、養蚕地帯が激減していることもあり、現在はミツバチのみの残毒試験で評価されている。
- 4 残留農薬基準は、相当の安全性を見込んだうえで、収穫物の許容残留量として設定されているため、農産物からは基準値に比べてわずかな量しか検出されないことが多い。

解答

【害虫防除】

問23 次の害虫と関連する作物名および加害様式の組み合わせのうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

【害虫】	【作物名】	【加害様式】
1 ハスモンヨトウ	ダイズ	外部から茎葉部を食害する。
2 トビイロウンカ	スイカ	外部から茎葉部を吸汁する。
3 モンシロチョウ	トマト	幼虫が葉肉内に潜入する。
4 アブラムシ類	野菜他	地際部を加害、食い切る。

解答

問24 次の記述のうち、()に入る語句として、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

「昆虫が、自分の体外へ発散して同種の他個体に生理的あるいは行動上の刺激を誘発する化学物質を()と呼び、雌雄の間で性的刺激を誘発する()を性()という。一部の害虫では性()をほ場に設置して害虫を誘引したり交尾を阻害することにより、害虫を防除するという利用法がある。」

- 1 ムシモン
- 2 カイロモン
- 3 アロモン
- 4 フェロモン

解答

問25 次の殺虫剤抵抗性対策に関する記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 殺虫スペクトルが広く残効が長い薬剤は比較的抵抗性が発達しにくく、天敵にも影響が弱いものが多いので活用できる。
- 2 土着天敵や導入天敵を有効に活用するためには、天敵に影響のある殺虫剤を利用する。
- 3 連続した世代に同一の作用機構を持つ薬剤を使用する世代間連用を避けブロックローテーションを取り入れるとよい。
- 4 対象害虫の殺虫剤に対する感受性は、卵→幼虫→成虫に至るそれぞれのステージによって変わらない。

解答

【病害防除】

問26 病原菌の伝染方法や病気の発生に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 糸状菌は、胞子による空気伝染、遊走子による水媒伝染、菌糸による土壌伝染などが主な伝染方法である。
- 2 細菌は、風雨や管理作業等によって伝搬し、植物表皮組織を破壊して自力で植物に侵入する。
- 3 ウイルス病の感染に、アブラムシやウンカなどの昆虫は関係がない。
- 4 温度や湿度は、病害の発生に大きな影響は与えない。

解答

問27 殺菌剤耐性に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 薬剤耐性菌が一度発生すると、その薬剤の使用を中止しても、耐性菌の発生比率が下がることはない。
- 2 異なる系統の殺菌剤を、ローテーション（輪用、交互使用）で使用すれば、耐性菌は発生しない。
- 3 殺菌剤のうち、特異作用点阻害剤は一般的に耐性菌の発生リスクが低い。一方、多作用点殺菌剤は一般的に耐性菌の発生リスクが高い。
- 4 耐性菌対策は、IPM（総合的病害虫・雑草管理）の実現に重要である。

解答

問28 病害防除に関する次の記述として、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 病害防除を行うとき、病気の原因菌の特定（診断）は重要ではない。
- 2 最近の殺菌剤は優れているため、発病が進んでいても十分な効果が得られるものが多い。
- 3 適切な肥培管理や発病した植物の除去は、病気の発生に大きく影響しない。
- 4 抵抗性台木や抵抗性品種の利用は、効果的で経済的な防除法である。

解答

【雑草防除】

問29 次の水田雑草のうち、一年生雑草を1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 セリ
- 2 コナギ
- 3 キシュウスズメノヒエ
- 4 クログワイ

解答

問30 除草剤に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 イネ科選択性の除草剤は、イネ科植物に害が少なく、広葉植物に害が強い特性を持っている。
- 2 除草剤は一般に高温ほど活力が高まり、どんなに高温であっても作物に葉害を起こすことはない。
- 3 除草剤は、雑草の発生前もしくは発生始期に土壌表面に散布して、雑草の発生を抑える土壌処理剤と、生育中の雑草の茎葉部に散布することによって枯殺する茎葉処理剤とに大別される。
- 4 除草剤は、田、畑に生える雑草に適応したものを選択すれば、決められた使用時期を誤っても除草効果は劣らない。

解答

問3 1 雑草の発生生態に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 水田ではキシュウスズメノヒエなど、畑ではスギナなど茎の節から盛んに発芽する種類は、ロータリー耕で切断しても、細断された茎が分散して増えることはない。
- 2 多年生雑草の塊茎などは、低温・乾燥に強いので、秋耕によって地表面に露出させても死滅して減少することはない。
- 3 水田雑草は発生後、水稻と養・水分の摂取で競合するが、水稻は分げつが抑制されたり、根の発達が悪くなって、栄養生長が不良となることはない。
- 4 播種または植え付け後、一定期間、雑草を抑えて雑草害の回避が求められる期間を除草必要期間という。

解答

【農薬安全使用】

問3 2 農薬に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 家庭菜園で自家消費のために栽培している農産物に農薬を散布する場合は、「農薬を使用する者が遵守すべき基準」（農薬使用基準）に従う必要はない。
- 2 ゴルフ場での農薬使用者のみが、農薬使用計画書を農林水産大臣に提出する必要がある。
- 3 DDT、BHC、パラチオン等27種類の農薬は、「農薬の販売を禁止する省令」により販売が禁止されているが、これらを使用することは罰則の対象にはならない。
- 4 農薬を使用した際、使用した農薬の種類または名称、使用した年月日など農薬使用基準に規定された事項を帳簿（使用記録簿）に記載するよう努めなければならない。

解答

問33 農薬のラベル表示に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ラベルに記載された使用量・希釈倍率は遵守すべきであるが、病害虫が異常に多発した場合は、被害を拡大させないことが重要であるため、やむを得ずラベル記載より多量・高濃度の倍率で農薬を使用しても問題はない。
- 2 同じ科に属する農作物に適用があっても、農薬を使用したい農作物がラベルに記載されていなければ使用できないため、使用する農薬のラベルに表示されている適用農作物を確認することが大切である。
- 3 農薬の総使用回数は、農薬の商品ごとに定められているため、有効成分名まで確認する必要はない。
- 4 最終有効年月を過ぎた農薬は、未開封であれば品質に問題がないと考えられることから、使用しないよう努める必要はない。

解答

問34 農薬の安全使用に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬は直射日光の当たらない冷涼な場所で保管したほうが良いために、食品と一緒に入っているが冷蔵庫の中で保管したほうが良い。
- 2 農薬の散布液を調整する際、原液が手についてもすぐに洗い流せば問題ないため、ビニール手袋などを着用する必要はない。
- 3 保護メガネは、農薬散布時に噴霧された薬液が目に入らないようにするために着用することが大切であるが、農薬の散布液を調整する際は、薬液が飛散することが無いので着用する必要はない。
- 4 農薬散布時に使用するマスクには、農薬用マスク、防護マスク、吸収缶付き防護マスクなどがあり、使用する農薬の種類や毒性に合わせた適正なマスクを選択して、正しく着用することが重要である。

解答

問35 農薬の使用上の注意点に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 全ての農薬は人体に対する安全性が確認されているため、体調が優れない時に農薬に接触しても中毒になることはない。
- 2 農薬散布は、涼しい朝夕に行うより、暑くとも散布した後に農薬が乾きやすい日中に散布した方が良い。
- 3 施設栽培などで農薬散布を行う場合、前進しながら散布すると、農薬がただよっている中を進むことになるうえ、農薬が付着した作物に身体が触れることになるため、農薬の身体への付着量を少なくするためには後進しながら散布した方が良い。
- 4 農薬の容器が古くなった場合は、ペットボトルなどの他の容器に移し換え保管を行う。

解答

問36 農薬散布時の周辺住民への配慮及び飛散防止に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 公園や街路樹等では、病虫害の発生を未然に防ぐ必要があるため、定期的に農薬散布による防除を行うことが重要である。
- 2 子供や通行人が近寄る恐れのある公園、街路樹等で防除する際、事前に周辺住民に周知を行っていれば、散布時に見張り役を置いたり、立て札・立て看板等の表示等により、散布時や散布直後に子供や通行人が立ち入らないように配慮する必要はない。
- 3 住宅地やその周辺等で農薬を使用する場合、事前に周辺住民に対して農薬の使用目的、散布日時、使用農薬の種類等について、回覧板、チラシなどで十分に周知することが重要である。
- 4 ドリフト（飛散）低減ノズルは、散布粒径が大きいいため、風が強い日でも十分な飛散低減効果が期待できる。

解答

問37 農薬散布時の環境への配慮及び作物残留に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬は、家畜、ミツバチや蚕などの有用昆虫等への安全性が確保されているため、養蜂の盛んな地域で農薬を使用する場合であっても、ミツバチに対して影響が低い農薬を選択する等の配慮をする必要はない。
- 2 水域の生活環境動植物の安全確保のために、水田で農薬を使用する際、決められた「止水日数」を守り、水域への農薬の流出を防ぐことが大切である。
- 3 散布圧力を高めて使用すると、散布粒子が粗く（大きく）なり飛散しにくくなるため、飛散防止対策として有効である。
- 4 農薬散布の際に、調整した散布液を使い切った場合は、農薬散布後に使用したタンクやホースを洗浄する必要はない。

解答

【農薬管理指導士の任務】

問38 農薬管理指導士に関する次の記述のうち、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 農薬管理指導士は、農薬販売業務に携わることができない。
- 2 農薬管理指導士は、農薬取締法に基づく調査権限がある。
- 3 農薬管理指導士は、他の農薬販売者、農薬使用者などに対し指導・助言を行い、農薬の安全かつ適正な使用推進に当たることが任務である。
- 4 農薬管理指導士は、5年に一度更新する必要がある。

解答

問39 次の文章は、農薬管理指導士に求められる資質について述べたものである。(ア)～(ウ)に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農薬管理指導士は、その任務を確実に実行するために、常日頃から自らの資質の維持・向上に努めることが必要とされる。農作物などの安定的な(ア)に不可欠な農薬が、いかにしてその(イ)が確保されているかを理解し、農薬の適正使用に関する認識を深めた上で、農薬取締法など関係法規、農薬の特性、農薬の(ウ)、病虫害・雑草の発生生態や防除に関することなど、農薬全般に関する一般的な事項についても十分な知識を有することが求められる。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	価格	採算性	販売方法
2	生産	安全性	適正使用方法
3	価格	安全性	適正使用方法
4	生産	採算性	販売方法

解答

【最近の動向】

問40 次の文章は、農業生産工程管理(GAP)について述べたものである。(ア)～(ウ)に入る語句の組合せとして、正しいものを1～4の中から一つ選びなさい。

農業生産工程管理(GAP)は、農林水産省によって「農業生産の各工程の実施、記録、点検及び(ア)を行うことによる持続的な改善活動であり、食品の安全性向上、(イ)、労働安全の確保等に資するとともに、(ウ)や効率化につながる取組」とされている。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	評価	農薬の安全	もうかる農業
2	防除	環境の保全	もうかる農業
3	防除	農薬の安全	農業経営の改善
4	評価	環境の保全	農業経営の改善

解答